



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号  
JR新宿ビル13F 〒151-8512  
電話 03-3375-5740(代)

2018年6月19日

発行人 山口浩治 編集人 湯ノ目亜矢子

第679号

月2回(1日、15日)発行/一部20円  
(組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは  
←こちらからアクセス  
<http://www.jreu.or.jp/>

# JR東労組の新たな運動を創造し、 信頼を回復する新体制スタート!

東日本旅客鉄道労働組合 第36回定期大会



JR東労組は、6月18日さいたま市文化センターに於いて、第36回定期大会を開催しました。本部は18春闘を「大敗北」として統括し、方針・戦術の間違いを間違いと認め、組合員からの信頼を取り戻すことを提起しました。また、代議員21名からの発言は、春闘方針に対する職場の現実や本部方針に対する批判など、発足以来最大の危機に直面しているJR東労組の再生に向けた意見が多く出されました。

また、一部OB会会員による「憂う会」の情報内容や配布は臨時大会方針に反し、12地本の団結を乱し、組織を混乱させ破壊する行為であることから組織破壊集団と規定し、断固闘い抜くことを決定しました。

そして、運動方針を満場一致で決定し、新たな山口中央執行委員長体制のもと、組合員にしっかり寄り添い、課題克服に向けて取り組みを確実に実践し「組合員のためのJR東労組運動」を取り戻すために12地本が団結し闘うことを確認しました。

本定期大会は、JR東労組運動の転換を通じて、職場にあるJR東労組に対する「不信」「不満」を「信頼」「期待」へと高めていく大会です。

本部の闘争目標・闘争戦術によって、多くの組合員、役員、皆さまにご迷惑をおかけしてきたことを深く反省し、お詫び申し上げます。JR東労組として、生み出してしまった現実をしっかり向き合い、真摯な反省を基礎にして、新たなJR東労組の創造に邁進していく決意です。

18春闘を総括するにあたっての視点の1点目は、本部が1月31日に申し入れた甲13号の回答を「17春闘を下回るもの」として「労使の紛争状態は拡大した」と会社へ通告をしました。これがスト権行使の布石でした。その後、定期中央委員会で「格差ベア永久根絶」を要求に掲げ、スト権行使を含むあらゆる闘争戦術を行使して闘うことを決定し、2月16日に闘甲1号を提出し団体交渉を行うことなく翌週の19日に厚生労働省・中央労働委員会・会社へ闘争予告通告を行いました。その闘甲1号は「所定昇給額を算出基礎にしないこと」とし、「格差ベア永久根絶」要求から大きくトーンダウンしました。そして「所定昇給額にこだわらない」との回答を「格差ベアの永久根絶」と解釈、「その都度協議すること」は大成果となりました。この本部見解に、多くの組合員から疑問の声が上がりましたが、本部は応えることが出来ず、「格差ベア永久根絶」という要求は勝ち取れませんでした。

第2点目は、3万人を超える組合員が脱退しました。吉川委員長(当時)は、全地本委員長会議の中で「少数派を辞さず闘い抜く」と言いました。また、昨年の全支部委員長会議で「18春闘で定額回答があったとしても19春闘以降も定額回答をしなければスト権を行使して闘う」、年明けには「格差ベアの問題は賃金の本質論だ」と提起しました。これらの内容は、三役での打ち合わせも中、突然出され、戦術についても練り合わせと全く違う内容が提起されるなど、組織運営が独裁的ではないかという疑問がありました。そのような組織状況が弱体化を生み出したと言えます。

第3点目は、スト権は労働組合にとって重要な権利です。しかし、スト権の確立も簡単なことではなく、組合員と十分な職場討議を含む議論や準備が必要です。17春闘の一票投票では「スト権確立と行使は別」「行使する際は改めて議論する」などとオルグされていたとするならば、本部指令は、組合員を根本から裏切ってしまったということです。

同時に「格差ベア永久根絶」がスト権行使に値する闘争課題であったのか。組合員の求める闘争課題・闘争形態ではなかったこと

## 18春闘を総括し、 JR東労組の再確立に向け最先頭で闘う

村田俊雄 中央執行委員長代理あいさつ(要旨)

とが、多くの組合員の脱退を生み出してしまったのです。今春闘で、役員・組合員は混乱し、JR東労組の求心力は衰え、脱退者を大量に生み出す原因をつくってしまったのは、打ち出した闘争課題・闘争戦術にあります。よって今春闘は「失敗」であり「大敗北」を喫したと総括しなければなりません。この総括に立って、JR東労組の再確立をはかり、企業内労働組合としてあるべき労使関係を本部が先頭に立って創り出していかねばなりません。

現在、「憂う会」なる組織が一部OBによって結成され、蠢いていることが発覚しました。JR東労組は、「憂う会」は組織の破壊・弱体化を狙った悪質極まりない組織であること、「憂う会」がJR総連を単に「連絡調整機関」と規定していることは、恣意的解釈であり、JR総連は産別として結集する単組に対して指導的立場を有する組織であることを中央執行委員会で確認しました。JR東労組全12地本は、組織破壊を企む「憂う会」を絶対に許すことなく、断固として対決していくことを確認し、一丸となって組織破壊に抗する闘いを進めてまいります。

この間、保線部門や乗務員勤務制度の見直しなどの施策提案と議論が矢継ぎ早に行われています。JR東労組は、政策提言能力を高め会社施策に対して真正面から向き合い「安全・健康・ゆとり・働きがい」など、労働者の視点を入れた施策へと作りかえていくことが重要なことだと考えています。

現在、JR東日本管内で悪質な列車妨害が多発しています。会社からも「鉄道妨害に関わる事象を知得した場合には、直ちに関係支社等に連絡をいただきたい」との協力要請を受け、JR東労組も直ちに協力を表明し見解を發しました。

また、今月9日には東海道新幹線で暴漢が乗客に切りつけ、制止に入った乗客を殺傷するという痛ましい事件が発生しました。JR東労組は、乗客・組合員・社員の安全を確保するため、緊急に申し入れを提出しました。今後具体的な安全対策や対応策などについて、議論を深めて参ります。

私たちを取り巻く環境は従来とは違っています。緊張感を持って対応し、分会・支部・地本・本部に情報を集中し、悪質な列車妨害をはね除け、安全で安心な鉄道を築き上げましょう。職場に集う組合員が安心して働き、明るく未来を語る職場を創り上げましょう。そして、脱退した仲間たちをしっかり迎えられるJR東労組組織を再確立するために本部が最先頭で奮闘することをお誓いして、挨拶とします。

# スローガン

1.「抵抗とヒューマニズム」を根底に据えた職場の声を大事にする

新しいJR東労組運動を創り上げるために全組合員が決起しよう!

1.組合員の雇用を守るために、今後の「施策」と新たな「働き方」に真摯に挑もう!

1.地域との連帯と信頼を構築し、地元の声を原点に、

JR東労組が地域社会の存続と発展に寄与するためのたたかいを創造しよう!

1.憲法改悪絶対反対!命と平和を守るネットワークをさらに拡大しよう!

## 主な発言

### ●施策について

▼乗務員勤務制度の見直しは、職場とかけ離れた人事制度になっている。多様な働き方と効率性は分けていくべきだ。乗務員を輸送サービスにタッグにしていけることが安全を大前提にしているのか(東京) ▼部会は業務問題に集中していかねばならない。要員削減だけの施策は受け入れられない。CBMモニタリングは課題が多々ある。乗務員勤務制度の見直しは裁量労働制の導入が考えられているのではない(運車部会) ▼CBMの未完全員合や課題が山積している中、団体交渉を行ってきた。現場無視の施策は破綻する。設備21施策の歪みが現場の問題点として現れている(工務部会) ▼現在も女性乗務員が乗務できない行路もある。多様な働き方というが、ゆとり、働きがいを持って乗務できる行路、安全第



議事を円滑に進めていた  
だいた議長団(左から)  
泉代議員【秋田】、佐々木  
代議員【盛岡】、中曽根代  
議員【千葉】



東日本旅客鉄道労働組合 第36回定期大会

一でなければならぬ(秋田) ▼乗務労働の特殊性や労働経験が軽視されているから誇りが失われ、判断力低下につながっている。判断できる乗務員の育成が必要だ。時間軸を持って、関係地本の議論時間を確保することを求める(水戸) ▼青年部として業務問題を議論しながら全組合員での運動をつくっていく。本部青年部の系統別意見交換会は全国の仲間と交流ができた。JR東労組組織でなければできない。青年部の必要性、自分の意思で活動する役員づくりをしていく(横浜)



### ●組織破壊攻撃に抗するたたかいについて

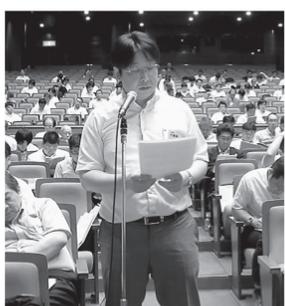
▼列車妨害は許さない。命を守るため警戒心を高めて全力を尽くしていく(盛岡) ▼

「憂う会通信」は組織破壊である。許さない(盛岡・秋田・千葉) ▼「憂う会通信」の内容を拡散するようにというメールとホームページが出回っている。八王子地本の見解と、調査を要請する(盛岡・仙台) ▼JR東労組再建に向けた取り組みを揺るがすものは断じて許さない(仙台・横浜) ▼3月20日に結成された新鉄労こそ組織破壊だ(東京) ▼列車妨害、組織混乱を持ち込むものたちと断固たたかい抜く(大宮)



### ●18春闘について

▼18春闘は闘争戦術に走ったことで、組合員からは「トップダウンの方針だ」「運車だけの組合ではない」という声があげられた。大敗北という総括があって組合員にしっかりと向き合える。臨大以降職場の声を尊重した取り組みをおこない、2名がJR東労組に復帰した。再加入の取り組みを進めていく(横浜) ▼これからやるべきことは労使紛争状態の解消と組合員を取り戻すこと。12地本一致して進むための18春闘総括をしなければならぬ。18春闘は敗北を認めること、大量脱退を出したこと、格差ペア永久根絶はもとより率回答は格差を生み出したこと、責任を曖昧にしないことだ(盛岡) ▼18春闘において格差ペア根絶の方針は間違っていない。方針は正しかった。団体交渉中にストをしてはいけないことから、労働協約70条の違反はしていない



▼2年前から総対話行動をしてきたが、一方的な押しつけをしてきたと考える。「方針が正しい」と上から目線で、スケジュールや数など押しつけて、たしる選の教訓が活かされていない18春闘だった。疑問に感じたのに議論しなかつたことは賛同したと同じことである。考え方が様々あるのは当然。だから議論をするのであり、議論をせずに物事が決まるのは組合員置き去りと同じだ。18春闘では現場の声を無視した提起で組織が壊れ動をしていく(長野) ▼いろいろな組合員がいて様々な意見があるが、みんなJR東労組の組合員。組合員の声を基に、職場の怒りを根底にたたかってきた。18春闘でのストライキ戦術行使方針は誤りだった。職場の組合員と意識の差は大きかった。ストの準備も全くていかなかった。今職場に組合員がいない。一かたつといていかなければならぬ。相手の立場にたつて再建に向けて進んでいく(営業部会) ▼18春闘は敗北だ。上部機関で決まったからという提起となり、営業、工務の仲間が辞易して脱退し、組織は強化されなかった。再結集をめざし、新生JR東労組をつくるために奮闘していく(秋田) ▼臨時大会では労使関係と組織の再構築が決定し、組合員の本音を聞くことに力を入れてきた。地本としての姿勢、組織を不安定にさせたことを正直に反省し、謝罪してきた。組織の弱体化を引き起こしたことは敗北である。敗北を共通認識にして反省と謝罪をし、今大会を区切りから上へ創りあげる運動をして再加入をつくらせていく。組合員の利益を守るためには

たことは賛同したと同じことである。考え方が様々あるのは当然。だから議論をするのであり、議論をせずに物事が決まるのは組合員置き去りと同じだ。18春闘では現場の声を無視した提起で組織が壊れ動をしていく(長野) ▼いろいろな組合員がいて様々な意見があるが、みんなJR東労組の組合員。組合員の声を基に、職場の怒りを根底にたたかってきた。18春闘でのストライキ戦術行使方針は誤りだった。職場の組合員と意識の差は大きかった。ストの準備も全くていかなかった。今職場に組合員がいない。一かたつといていかなければならぬ。相手の立場にたつて再建に向けて進んでいく(営業部会) ▼18春闘は敗北だ。上部機関で決まったからという提起となり、営業、工務の仲間が辞易して脱退し、組織は強化されなかった。再結集をめざし、新生JR東労組をつくるために奮闘していく(秋田) ▼臨時大会では労使関係と組織の再構築が決定し、組合員の本音を聞くことに力を入れてきた。地本としての姿勢、組織を不安定にさせたことを正直に反省し、謝罪してきた。組織の弱体化を引き起こしたことは敗北である。敗北を共通認識にして反省と謝罪をし、今大会を区切りから上へ創りあげる運動をして再加入をつくらせていく。組合員の利益を守るためには

組織がなければならぬ(千葉) ▼18春闘を総括するにあたり、指導部の体質改善が求められる。2月の時点でなぜ指導部は指摘できなかったのか振り返らなければならぬ。組織再生に向けて本部と共に歩んでいく(高崎) ▼闘争1号はこれまでの闘いの到達点として成果を確認できる。あらゆる闘いで交渉力を高めた結果である。18春闘を総括する専門的な場をつくるべきだ(東京) ▼結成32年目にしての大量脱退の根拠は、嘘と誤魔化して組合員に欺いていたことである。運動が一部だけで進められていることに対する違和感があったが言えなかった。一方で受け止めない側があった。職場は安定を求めている。12地本一体で方針を進めていくその中心は組合員である。組合員の声に耳と心を傾けていく(仙台) ▼18春闘は敗北である。指導部の誤りで生み出した現実を受け止めないとダメだ。本部指導を押しつけてはならない。全組合員のJR東労組運動である。再結集をめざしていく(盛岡) ▼18春闘では成果を語っても組合員には響かず、現場からは嘘や誤魔化しは通じないと言われた。敗北という総括を克服し、組織の再建を図っていかねばならない。再加入の実現は相当厳しいが、立ち向かうしかない。仲間を大切に共につたかろ職場づくりをしていく(大宮)

# 組合員の声に寄り添い、新たなJR東労組運動を仲間と共に創り出そう!!

総括答弁(要旨) 書記長 山口 浩治

臨時大会の開催以降、各地本で18春闘の主体的な総括を深めていただき、代議員の発言からも中央本部に対して様々な指摘をいただきました。約3万人が脱退をされている組織現実が、JR東労組にとってこれまでにない異常事態であり、私たちはこの現実から目を背けるわけにはいきません。不当労働行為による脱退は一つの要因だと思えます。しかし「不当労働行為を呼び込んだのは組合の責任ではないか」という発言を私たちは重く受け止めます。何故に今の組織現実が起きてしまったのか、これまでの過程を主体的に振り返ることが、JR東労組の再生の道への結節点になるのではないかと考えています。

## 18春闘総括(1/5)

18春闘は大敗北である。ここに私たちは立たなければならぬと思えます。今日ここにいる中央執行委員は、18春闘の全過程に関わっています。制裁対象者となっている吉川委員長や宮澤副委員長、あるいは12名の中央執行委員に責任をなすりつけているわけではありませぬ。この間、彼らは組織決定や運営に対して、それを逸脱したことから制裁審査委員会が設置されたのであり、決して18春闘の責任をとって制裁対象者になっているわけではありませぬ。私たちは、多くの組合員が18春闘の闘争方針をめぐり、それが脱退の理由になっているという現実に向き合わなければならないと思えます。

## 「格差ベア永久根絶」方針の誤り

「格差ベア永久根絶」方針について、吉川委員長は全専従者会議、第1回中央闘争委員会の中で「格差ベア永久根絶を掲げる」「所定昇給額を算出基礎にする」ことを根絶する「満足な回答を得られなければ戦術行使を実施する」という提起を行いました。しかし、その約2週間後、第2回中央闘争委員会でも吉川委員長から「会社は永久根絶という回答はしないだろう」という見解が出され、定期中央委員会では「確立したスト権を行使する準備に入る」という提起を行いました。たった2週間で、戦術行使を背景にして格差ベアの永久根絶を図るという目的と手段の関係が逆転してしまったという事です。戦術行使が優先され「格差ベア永久根絶」という方針が打ち出されてしまったのではないかと、私たちは総括すべきだと思います。

現実には照らし合わせれば、組合員が望んでいない方向へ導いてしまったといつて過言ではありません。また、会社と対立すること、あるいは会社が答えられないことを前面に打ち出された「格差ベア永久根絶」方針であり、明らかに誤りであったと言えます。

## ストライキ戦術行使についての誤り

ストライキ戦術の行使については、2月8日の戦術委員長会議で具体的な戦術のスケジュールを提起しましたが、12地本が戦術行使に入ることに一致したわけではありませぬ。「確立と行使は別」「行使するときは改めて議論を行う」という認識が組合員の現状でした。しかし、中央本部は「17春闘と18春闘の違いの認識、具体的な戦術行使、ベアの否定と破壊」という本質規定について、組合費で生活している専従者は語らなければならない」という委員長の問題提起をもとに突き進んでしまいました。

2月19日の戦術行使の予告を決めたのは2月8日の戦術委員長会議です。しかし、その時点で闘争1号の申し入れについては全く検討をしていません。検討をしたのは、提出の前日である2月15日であり、吉川委員長が内容を決めました。この闘争1号は「所定昇給額を算出基礎にしない」という要求内容で、申13号の延長線上に闘争1号があるという位置づけになります。このことが全く議論されなかったため、後の総括では闘争1号を出して議論する前に予告をしたことが協約の70条に違反していると判断せざるを得ませんでした。あらかじめ闘争1号があつて、その後2月19日の戦術行使予告を決めたわけではありませぬ。

会社は、これまで私たちに對して全く引く姿勢を見せませんでした。ところが、吉川委員長は「会社が引こうとしているのに、なぜこちら側が引くのか」ということで私たちに檄を飛ばしました。そのことは会社との力関係を見誤っていたということであり、中央本部は18春闘におけるストライキ戦術行使も誤りであったと明確にしなければなりません。

## 18春闘は大敗北であることを受け止める

2月24日に開催した戦術委員長会議では「所定昇給額を算出基礎とする」ことをご存知ないことは、大きな成果と言えるのかという疑問が呈されました。しかし、本部はこれは「成果」ということで押し返し、地本との議論の一致は図れませんでした。戦術行使まで高めました「格差ベア永久根絶」まで勝ち取れていないのが現実です。18春闘の受結結果は、未だに組合員に様々な受け止めがあり、組織に対する求心力を取り戻せていないことは、これまでの春闘ではなかったことであり、「大敗北」として私たちは明確にしなければなりません。

## 中央本部役員の質を克服

中央本部の質的問題の一つ目は、委員長にモノが言えなかった現実です。議論の場が決定的に不足していたことが浮き彫りとなりま

した。JR東労組全体の方針へと高めていく過程で、中央本部内、三役会議・企画会議などの中で練り合わされてきたのが大きな課題です。

職場組合員の現実を踏まえ、打ち出された方針をとにかく12地本へと高めていくことに、汲々とし、その結果が今の組織現実を生み出してしまっている反省します。

二つ目に、中央本部が職場から遠い存在になってしまっていることです。発言においても、上からの指示にNOと言えない現実が浮き彫りにされました。今後は中央本部として、役員だけでなく職場の組合員としっかり議論を深めていく場を創り上げていかなければなりません。

三つ目に、たしる選挙の教訓が活かされていないということです。たしる選挙の教訓は、様々な組織現実を照らし合わせて、方針を変更する必要がある時は、全地本が集まって議論をすること、そして納得感を持って方針を変えていくことが教訓であったはずです。

今、組合員が求めているのはJR東労組がJR東労組であつてほしいということ。そのために、18春闘を総括する中で、もう一度原点に帰ろうということをお私たちに教えてくれます。改めて中央本部はしっかりと総括議論を行っていきます。ぜひ、職場の組合員の声を中央本部に届けてください。組合員の声を謙虚に受け止め、自動努力を行い、自分自身を変えていかなければ、組合員の再加入を訴えていくことはできません。

## 「憂つ会」は、組織破壊と規定

「憂つ会」についても代議員から発言がありました。経過報告では「JR東労組の現状をただし、国鉄改革の精神を忘れないためのJR東労組OBの連絡会準備会」という組織が発足しているという報告を受けました。内容は、現執行部批判とJR東労組の今後のたたかいを真っ向から否定するものです。この間の苦しめたたたかいの経過にも迫らず、結果において解釈をし、評論家的立場で反東労組を組織化する策動を、私たちは絶対に許してはなりません。JR東労組破壊以外の何ものでもないことを明確にさせていきたいと思えます。

私たちは様々な妨害・圧力にも屈せず、もう一度新たなJR東労組運動を再生させなければなりません。「誰かがやってくれろ」ということではなく、何としても組合員を再加入させ新たなJR東労組へと飛躍しよう」を合言葉に第36回定期大会以降のたたかきも力強く創り上げていきたいと思えます。全職場、全組合員の新たな決起を要請しまして、総括答弁とさせていただきます。

## JR東労組 第36回定期大会運動方針に対する修正動議

運動方針 (案) P22 10行目～14行目

一方、会社に対しては労働協約第70条を踏まえずに争議行為の予告を行ったことなど、中央本部としての責任と課題が明確になっています。これらが組合員に対しては不信感として映り、会社による社員に対する執拗な訓示などと相まって脱退の流れへとつながりました。

の部分に対して『労使間の取り扱いに関する協約第70条を組合が違反した』との認識は事実と異なり、18春闘に誤った総括をもたらすため』との理由から修正動議が提出され、採決を行い否決されました。

### 《採決結果》

反対	151
棄権	5
賛成	94
無効	1



### 《発言者》

田頭啓・大村博行(盛岡)、野辺康太(秋田)、皆本起良・尾形豊(仙台)、長嶋竜一・山口真広(水戸)、下村悟史(千葉)、田中正文・川上浩一(東京)、山本純一・重久拓也(横浜)、加藤泰明(八王子)、川本隼人・川澄新一(大宮)、堀口真明(高崎)、横山二(新潟)、宮西史郎(長野)、小澤治彦(営業部会)、佐藤一雄(運車部会)、大場政勝(工務部会)

(敬称略・順不同)

# 夏季手当 妥結!!

## JR東労組

基準内賃金の2.91ヶ月分  
エルダーも同月数  
6月28日以降準備でき次第



## バス関東本部

バス社員基準内賃金の 2.8ヶ月  
契約社員A基準内賃金の 2.2ヶ月  
契約社員B

継続雇用期間及び従事する業務に基づき定めた額+2万円  
臨時雇用員  
継続雇用期間及び調査期間内における稼働時間に基づき定めた額+2万円  
6月28日以降準備でき次第

## バス東北本部

バス社員基準内賃金の  
2.45ヶ月+8万円  
(月数に換算すると2.854ヶ月)

契約社員  
基本日額×1.87ヶ月×23日+8万円  
6月28日以降準備でき次第



第27回情報コンクール受賞機関のみなさん



組合員表彰のみなさん

### 大会にお越しいただいたみなさま (敬称略)

- 全日本鉄道労働組合総連合会 (JR総連)
  - 執行委員長 榎本 一夫
  - 執行副委員長 田城 郁
  - 書記長 柳 明則
  - 組織・共闘部長 熊谷 茂
  - 財政・共済部長 照井 欣也
- 歴代中央執行委員長
  - 柚木 泰幸
  - 千葉 勝也
- JR東労組08会
  - 会長 古川 建三
- やじんき法律事務所 弁護士 渡辺 千古
- 美世志会 梁次 邦夫
- (株)鉄道ファミリー
  - 社長 阿部 宏
  - 取締役事業部長 八ツ田富男
  - 営業担当部長 高橋 忍

### 大会に寄せられたメッセージ (敬称略)

- 北海道旅客鉄道労働組合 中央執行委員長 鎌田 寛司
- ジェイアール東海労働組合 中央執行委員長 小林 光昭
- JR西日本労働組合 中央執行委員長 菅野 武男
- 日本貨物鉄道労働組合 中央執行委員長 相澤 武志
- 鉄道総合技術研究所労働組合 執行委員長 間々田 祥吾
- ソフトバンク労働組合 執行委員長 鈴木 建行
- ホテル聚楽労働組合 執行委員長 斎藤 敏彰
- 鉄道情報システム労働組合 執行委員長 高橋 岳志
- JR総連・各単組賛助団体 株式会社 鉄道ファミリー 代表取締役社長 阿部 宏
- 全労済 関東総括本部 統括本部長 廣田 政巳
- 労働調査協議会

### 退任された役員(敬称略)

- 中央執行副委員長 奥山 光昭
- 情宣部長 中山 透
- 業務担当部長 貴志 法晃
- 会計監査員 梁島 幹雅
- 川上 努
- 総務・財政担当部長 奥山 光昭
- 総務・財政部長 佐藤 伸也
- 総務・財政部長 堀内 紘乃
- 業務担当部長 杉本 博輝
- 業務担当部長 遠藤 慶宣
- 業務担当部長 久能 裕一
- 業務担当部長 長谷 理生
- 業務担当部長 関原 和人
- 業務担当部長 井上 寛志
- 業務担当部長 高橋 孝一
- 情宣部長 人見 香織
- 情宣部長 菅原 亮児
- 情宣部長 湯ノ目亜矢子
- 組織部長 茂筑 暢子
- 組織部長 三尾 典子
- 組織部長 齊藤 秀一
- 組織部長 小黒加久則
- 組織部長 八ツ田富男
- 組織部長 照井 欣也
- 組織部長 山田 知茂
- 組織部長 熊谷 明則
- 組織部長 柳 明則
- 組織部長 田城 郁
- 組織部長 島山 浩信
- 組織部長 重久 拓也
- 組織部長 石戸 慎吾
- 組織部長 三浦 眞吾
- 組織部長 浅沼 宏樹
- 組織部長 佐藤 英樹
- 組織部長 銭谷 公太
- 組織部長 田崎 聡
- 組織部長 齊藤 弘教
- 法対部長 上原 潤一
- 共闘・広報部長 加藤 幸久
- 中央執行副委員長 徳野 善久
- 中央執行副委員長 氏家 善範
- 中央執行副委員長 村田 俊雄
- 中央執行副委員長 山口 浩治

## JR総連 榎本委員長挨拶 (要旨)

# 新たなJR総連をつくり出し 組合員の付託に応える運動を進めていこう!



JR総連は6月3・4日、第34回定期大会を開催し、JR東労組と共に歩み、連携することを確認しました。残念ながら、JR東労組ではたった3ヶ月で組合員の7割が組織を去りました。JR東労組は自らの方針によって組合員が離脱し少数派になった現実を受け止め、克服し、再生するために取り組みを開始しようではありませんか。

JR東労組は、2018春闘において、指名スト及び非協力闘争方針を機に決定しました。JR総連大会でJR東海労の仲間から「JR東労組指導部は、ありとあらゆる闘争戦術を行使して、格差ペア根絶のために真剣に決起しようとしたのか」と発言がありました。本来、指名ストを打つのであれば1年間かけて準備し、「格差ペア根絶」に向けて組合員の意見や思

先日、JR北海道労組とJR東海労の定期大会でも、多くの代議員からJR東労組の新体制と連携してたたかていくと発言がありました。そのため「JR総連は指導性を発揮せよ」という、要請も受けました。従ってJR総連はJR東労組執行部と直ちに18春闘における総括とJR東労組やJR総連の破壊を目的とする様々な動きに対して断固として闘っていきます。そして、新たなJR総連運動を創り出し、組合員の付託に応える運動を進めていくことを決意しあいさつとします。

## 2018年度新執行体制 (敬称略)

- 中央執行委員長 山口 浩治
- 中央執行副委員長 村田 俊雄
- 中央執行副委員長 氏家 善範
- 中央執行副委員長 徳野 幸久
- 中央執行副委員長 加藤 幸久
- 法対部長 上原 潤一
- 共闘・広報部長 齊藤 弘教
- 組織研修担当部長 田崎 聡
- 組織研修担当部長 銭谷 公太
- 組織研修担当部長 佐藤 英樹
- 組織研修担当部長 浅沼 宏樹
- 組織研修担当部長 三浦 眞吾
- 組織研修担当部長 石戸 慎吾
- 組織研修担当部長 重久 拓也
- 組織部長 島山 浩信
- 組織部長 田城 郁
- 組織部長 柳 明則
- 組織部長 熊谷 明則
- 組織部長 山田 知茂
- 組織部長 照井 欣也
- 組織部長 八ツ田富男
- 組織部長 小黒加久則
- 組織部長 齊藤 秀一
- 組織部長 三尾 典子
- 組織部長 茂筑 暢子
- 組織部長 湯ノ目亜矢子
- 情宣部長 菅原 亮児
- 情宣部長 人見 香織
- 情宣部長 高橋 孝一
- 情宣部長 井上 寛志
- 情宣部長 関原 和人
- 情宣部長 長谷 理生
- 情宣部長 久能 裕一
- 情宣部長 遠藤 慶宣
- 情宣部長 杉本 博輝
- 情宣部長 堀内 紘乃
- 情宣部長 佐藤 伸也
- 情宣部長 奥山 光昭
- 業務担当部長 奥山 光昭
- 業務担当部長 佐藤 伸也
- 業務担当部長 堀内 紘乃
- 業務担当部長 杉本 博輝
- 業務担当部長 遠藤 慶宣
- 業務担当部長 久能 裕一
- 業務担当部長 長谷 理生
- 業務担当部長 関原 和人
- 業務担当部長 井上 寛志
- 業務担当部長 高橋 孝一
- 業務担当部長 人見 香織
- 業務担当部長 菅原 亮児
- 業務担当部長 湯ノ目亜矢子
- 業務担当部長 茂筑 暢子
- 業務担当部長 三尾 典子
- 業務担当部長 齊藤 秀一
- 業務担当部長 小黒加久則
- 業務担当部長 八ツ田富男
- 業務担当部長 照井 欣也
- 業務担当部長 山田 知茂
- 業務担当部長 熊谷 明則
- 業務担当部長 柳 明則
- 業務担当部長 田城 郁
- 業務担当部長 島山 浩信
- 業務担当部長 重久 拓也
- 業務担当部長 石戸 慎吾
- 業務担当部長 三浦 眞吾
- 業務担当部長 浅沼 宏樹
- 業務担当部長 佐藤 英樹
- 業務担当部長 銭谷 公太
- 業務担当部長 田崎 聡
- 業務担当部長 齊藤 弘教
- 業務担当部長 上原 潤一
- 業務担当部長 加藤 幸久
- 業務担当部長 徳野 善久
- 業務担当部長 氏家 善範
- 業務担当部長 村田 俊雄
- 業務担当部長 山口 浩治
- 業務担当部長 奥山 光昭
- 業務担当部長 佐藤 伸也
- 業務担当部長 堀内 紘乃
- 業務担当部長 杉本 博輝
- 業務担当部長 遠藤 慶宣
- 業務担当部長 久能 裕一
- 業務担当部長 長谷 理生
- 業務担当部長 関原 和人
- 業務担当部長 井上 寛志
- 業務担当部長 高橋 孝一
- 業務担当部長 人見 香織
- 業務担当部長 菅原 亮児
- 業務担当部長 湯ノ目亜矢子
- 業務担当部長 茂筑 暢子
- 業務担当部長 三尾 典子
- 業務担当部長 齊藤 秀一
- 業務担当部長 小黒加久則
- 業務担当部長 八ツ田富男
- 業務担当部長 照井 欣也
- 業務担当部長 山田 知茂
- 業務担当部長 熊谷 明則
- 業務担当部長 柳 明則
- 業務担当部長 田城 郁
- 業務担当部長 島山 浩信
- 業務担当部長 重久 拓也
- 業務担当部長 石戸 慎吾
- 業務担当部長 三浦 眞吾
- 業務担当部長 浅沼 宏樹
- 業務担当部長 佐藤 英樹
- 業務担当部長 銭谷 公太
- 業務担当部長 田崎 聡
- 業務担当部長 齊藤 弘教
- 業務担当部長 上原 潤一
- 業務担当部長 加藤 幸久
- 業務担当部長 徳野 善久
- 業務担当部長 氏家 善範
- 業務担当部長 村田 俊雄
- 業務担当部長 山口 浩治

よろしくお願ひします